

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203006		
法人名	合同会社 総合介護サービス		
事業所名	グループホーム さくらそう茶屋町		
所在地	岡山県倉敷市茶屋町早沖1575-16		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3370203006-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3370203006-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・のんびりとした雰囲気の中で個々ひあつた支援が行えるよう努めています</li> <li>・ご利用者の残存機能維持のため生活リハビリを行っています</li> <li>・ユニットの隔たりをなくしご利用者が気軽に交流できなじみの関係が気付けるように努めています</li> <li>・委員会を発足しご利用者様で生活の場として安心して過ごせるように努めています</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>既存の福祉事業所を現オーナーが継承して名前も新たにスタートし、今までの努力が昨年頃から実を結び、「さくらそう茶屋町」して地域からの信頼も深まり、利用者や職員の絆はより強いものとなって、理念に沿った「利用者も職員も笑顔いっぱい」の支援が定着して来ている。利用者はそれぞれの特性を活かし、一人ひとりのペースに合わせた穏やかな暮らしをしている。器具を使つての機能訓練や、生活の中でも出来ることは自分でしてもらうことで、心身両面の活性化に努めている。職員の年齢層は幅広く、両ユニットで情報共有し協力しながら利用者の暮らしを支え、生活の質の向上を目指している。今後は地域に密着した事業所としてさらに発展しようと努めている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内又はホール内に掲示をいつでも目に入る様にしており、朝の申し送りの際にはスタッフ一同で唱和している	理念は見やすい位置に掲示され、毎朝申し送り時に唱和している。ミーティングや日々の実践の中でその都度話し合い、理念に沿った支援に努めている。利用者と職員が共に「笑顔」で過ごせる場作りを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気のいい日は利用者と共に散歩に出かけており、近所の方とのコミュニケーションを図っている。今後は地域の行事等に参加できるよう企画している	町内会長の協力を得て、平成27年度からは回覧版が届くようになった。ボランティアの随時訪問がある。マジックショーを子供会に紹介したりと、自然な近隣とのお付き合いが広がりつつある。	運営推進会議も橋渡しの一つとなり、地域との交流は徐々に深まっている。事業所としても今後の交流に意欲を持っており、さらに地域との信頼関係が構築されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方にも施設の行事やイベントに参加して頂けるよう図っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年4月よりかねてからの懸案であった運営推進会議を開始した。今後も引き続き行っていき意見を聞きながら施設運営をしていきたい	平成26年度は2か月毎の開催が出来ている。町内会長や民生委員、子供会役員、包括支援センター職員などが参加して開催されている。事業所からの情報発信と各方面から意見を聞く場として、活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センターに挨拶に回り、相談や助言を受ける等を行っています	運営推進会議に包括支援センター職員や市職員の参加があり、情報交換を図っている。相談事に本庁へ行くこともあり、連携を図りながら良好な協力関係が継続できるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要に応じ玄関で施錠を行っていきなるべく解放出来るようスタッフの動きを考えながらケアを行っている。	利用者の安全をまず第一と考えているが、両ユニットが協力して、可能な限り自由に過ごせるようにしている。職員は様子を見ながらその都度話し合い、正しい理解と情報共有の浸透を図っている。現在該当者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月開催している勉強会において虐待防止や虐待についての勉強会をし職員に理解を深めてもらえるよう企画している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループ企業の中で後見人をつけておられる方もあり、他施設と連携して共通認識を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には契約書・重要事項説明書等によりわかりやすく説明を行い 不明な点はいつでも問い合わせができる体制があることを伝え入居していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月活動内容を新聞にて配布している。又面会に来られた際に御家族に声を掛けさせて頂き意見等を聴く機会を持っている。イベント等の行事にも家族あ参加できる機会をもっている	家族の来訪時は意見を伺う機会であり、来られた時はゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。職員は家族が行事や会議に参加する機会をさらに増やして、意見を伝えやすい環境作りを進めたいと思っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回 ユニット会議や全体会議をし話し合いを行っている。又問題等があれば管理者に報告してもらい反映している	ユニット会議や合同の全体会議は職員の意見交換の場であり、カンファレンスの機会ともなっている。統括責任者や管理者に日々の実践で気づいた事柄は伝わっており、本社への意見の汲み上げも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の責任者、管理者、スタッフとの3者面談を毎月行い、各職員の状況把握をし問題解決に取り組む		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、他施設とも合同での内部研修と出来る限り外部の研修機会を設けている。新人研修・管理者研修も今初めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、他事業所の運営状況やケアの方法を指導いただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とヒヤリングを行いながらアセスメントを行いそれを元にプランを作成している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に話しを伺い、それを基に本人と話しをしプランを作成している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問看護に来てもらっているため、看取り希望の方も視野に入れ対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みも関係を築くためコミュニケーションの時間を多く持ち、ご本人の希望に添えるよう対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時は連絡をし面会の際にケアの内容等の説明を行っている。又家族からの意見も取り入れるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に時間を問わず、御家族や親類の方には面会をしていただけゆっくと会話ができるよう居室に案内している。	家族と一緒に自宅へ帰ったり、外食に出かけたりしている。お墓参りをしたり、馴染みの美容院へ行ったりと、利用者それぞれのこれまでの生活経験が活かされた暮らしが提供されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間を設け、入居者同士が毎日コミュニケーションが図れる時間をつくっている。ソファでくつろげる空間を作り、テレビをみたり会話をしたりとゆったり過ごせる時間を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に御家族に何かあった際は相談をしてきて頂きと話しをしています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の事前面接や過去の生活歴をヒヤリングし、今までの生活を入居してからの生活に反映できるよう、カンファレンスの際にしっかりと話しあっている	家族の協力も得ながら、利用者一人ひとりの嗜好や習慣も見逃さないように、職員間で情報共有を図り、思いや希望に添った対応に努めている。意思表示が出来難い方へは日頃の言動や状況から判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に御家族やケアマネから生活歴等をヒヤリングし施設内でも反映することができるようカンファレンスの際にしっかりと話しあっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の様子を観察した上でタイムスケジュールを把握し、本人に合わせた生活リズムにて生活して頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に家族・ケアマネジャーからの要望を聞き、本人にはどのような生活をしていただいたらいいか、どうあってほしいかの要望を聞き計画書に反映している	6か月を基本として見直している。変化時は随時対応しており、本人や家族の意向を組み込んだ、現状に即した計画作成を図っている。職員間で情報共有を心がけ、毎日の実践の中で検討して、記録に残すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝申し送りにて昨日の日中、夜間の状態「を伝えるとともに状態の変化があればその都度カンファレンスを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの協力を得たり等その人にあつた環境整備を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の体調や身体の状態向上に努めるために買い物や散歩を実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族希望のかかりつけ医に往診をしても、少しの変化でも連絡、報告を行い主治医との連携を図っている。又緊急時にはご家族と一緒に受診している	入居時に話し合っている。従来のかかりつけ医への受診は家族にお願いしているが、他科の受診は職員が同行することも多い。提携医が隔週、看護師が週に1回訪問している。訪問歯科を利用されている方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に報告し早期発見・早期対応ができるよう密に連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に面会に行き、担当医・看護師から情報を得て、退院時にしっかりケアが行えるよう医療機関との連携も大切にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明を行い、終末期の対応に医療が必要ない場合は、担当を決めカンファレンスを行っている	入居時に看取り指針に沿った話し合いを行っている。状態の変化に応じてその都度話し合い、本人や家族の思いに添いたいと思っているが、継続した医療行為が必要となった時をひとつの目処と考えている。自然な形での看取りは行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成している。急変時の対応については定期的に勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている	10月に防火避難訓練を実施しており、今月に2回目を行う予定である。前回は運営推進会議と合わせて行い、地域との協力関係も深まって来ている。消防署から初期消火や消火器の使い方などの指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉使いについては御利用者様の目線に合わせた姿勢又傾聴できる体制を整えるよう常に心がけている	利用者の立場に立った対応を心がけ、それぞれに合わせた言葉かけで、安心を引き出すようにしている。力量を尊重して、役割を持って暮らすことで、落ち着いた日々を過ごせるようになった利用者の姿を窺うことができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との一対一の会話をする機会を設けその際に希望や思いを聞き出したり「どうしましょうか?」と言葉を投げかけたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせたケアが行えるようゆったりした時間配分をしている。又個別レクリエーションや外出支援等希望に沿って行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて新しい服の購入等を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な盛り付けや片付けを行ってもらっている。食べたいものの希望を聞き手作りご飯の際は反映している	献立と食材は委託業者に依頼しているが、イベントや誕生日などに手作り料理やおやつを提供しており、大きな楽しみの一つとなっている。お寿司作りなどは利用者が本領を発揮するところである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で調理されており1日バランスのとれた食事を摂っている。水分については水分量を記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている 定期的に訪問歯科による検診を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し排泄パターンの把握に努めている。トイレ誘導を行っている方も個々に合わせた声掛けや誘導を行っている	それぞれの状態に応じて声かけ誘導し、早目の対応に努めている。紙パンツから布パンツへと改善された方もあり、一人ひとりに合った、トイレでの排泄と自立に向け取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽運動や散歩等により体を動かす又食事内容の検討等しなるべく薬に頼らず自然排便が見られるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回利用者様に合わせたタイミングを図り声掛け等により入浴を行っている	週に3回午前中の中の入浴を基本としているが、気分に合わせて午後入浴することもあり、無理強いない対応を心がけている。季節を感じるゆず湯の提供もある。一対一で対応し、コミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々のタイミングで休息を取ってもらい、安心して夜間睡眠がとれるよう、静かで快適な空間を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の疾患や既往歴を把握し、何の薬を服用しているか理解し又服用後の変化がないかの確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好きなことができるよう個別の対応をしている 毎月、イベントを企画して楽しみ事の支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な行事や外出支援を行っている 外出支援の際は買い物を行うこともある	年間行事として、初詣や花見、紅葉狩りなどが行われている。周囲は田畑が広がり、散歩コースとなっている。家族と一緒に出かけたり、職員が買い物に同行することもあるが、今後はさらに利用者が月に一度は外出できるよう機会を増やしていきたいと思っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望により少しのお金を持つ方はおられます。買い物を行うことによってお金を使うということを行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により電話を貸出したり、スタッフと一緒に手紙を書く等の支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度・温度調整の管理に努めている。季節に応じた壁画作り等を利用者の方と一緒にを行う等をしている	温度や湿度に配慮された開放感ある空間となっている。大きな窓から見える周囲の情景は、自然を感じる心地良さと安心に繋がっているように思う。2階のユニットはゆったりとしたベランダが広がり、時候の良い時は食事をしたり、お茶を楽しむ場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置きテレビを一緒に見たり、お茶を飲んだりできる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を入居時に持参して貰ったり、利用者様から訴えがあった時は御家族に持参して頂くようにしている	ベッドとクローゼットが提供されている。使い慣れたタンスや手作り作品、若い頃に描いた油絵などが持ち込まれた、それぞれの個性と今までの生活を感じる居室である。加湿器が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ることの能力を把握し「自分が役に立てる」という気持ちになって頂けるようご飯の盛り付け等の支援をしています		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370203006		
法人名	合同会社 総合介護サービス		
事業所名	グループホーム さくらそう茶屋町		
所在地	岡山県倉敷市茶屋町早沖1575-16		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・のんびりとした雰囲気の中で個々ひあった支援が行えるよう努めています</li> <li>・ご利用者の残存機能維持のため生活リハビリを行っています</li> <li>・ユニットの隔たりをなくしご利用者様が気軽に交流できなじみの関係が気付けるように努めています。</li> <li>・委員会を発足しご利用者様で生活の場として安心して過ごせるように努めています。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3370203006-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3370203006-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年3月16日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内又はホール内に掲示をいつでも目に入る様にしており、朝の申し送りの際にはスタッフ一同で唱和している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気のいい日は利用者と共に散歩に出かけており、近所の方とのコミュニケーションを図っている。今後は地域の行事等に参加できるよう企画している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方にも施設の行事やイベントに参加して頂けるよう図っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年4月よりかねてからの懸案であった運営推進会議を開始した。今後も引き続き行っていき意見を聞きながら施設運営をしていきたい		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センターに挨拶に回り、相談や助言を受ける等を行っています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要に応じ玄関で施錠を行っていがなるべく解放出来るようスタッフの動きを考えながらケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月開催している勉強会において虐待防止や虐待についての勉強会をし職員に理解を深めてもらえるよう企画している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループ企業の中で後見人をつけておられる方もあり、他施設と連携して共通認識を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には契約書・重要事項説明書等によりわかりやすく説明を行い 不明な点はいつでも問い合わせができる体制があることを伝え入居していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月活動内容を新聞にて配布している。又面会に来られた際に御家族に声を掛けさせて頂き意見等を聴く機会を持っている。イベント等の行事にも家族あ参加できる機会をもっている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回 ユニット会議や全体会議をし話し合いを行っている。又問題等があれば管理者に報告してもらい反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の責任者、管理者、スタッフとの3者面談を毎月行い、各職員の状況把握をし問題解決に取り組む		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、他施設とも合同での内部研修と出来る限り外部の研修機会を設けている。新人研修・管理者研修も今初めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、他事業所の運営状況やケアの方法を指導いただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とヒヤリングを行いながらアセスメントを行いそれを元にプランを作成している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に話しを伺い、それを基に本人と話しをしプランを作成している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問看護に来てもらっているため、看取り希望の方も視野に入れ対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みも関係を築くためコミュニケーションの時間を多く持ち、ご本人の希望に添えるよう対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあった時は連絡をし面会の際にケアの内容等の説明を行っている。又家族からの意見も取り入れるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に時間を問わず、御家族や親類の方には面会をしていただけゆっくと会話ができるよう居室に案内している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間を設け、入居者同士が毎日コミュニケーションが図れる時間をつくっている。ソファでくつろげる空間を作り、テレビをみたり会話をしたりとゆったり過ごせる時間を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に御家族に何かあった際は相談をしてきて頂きと話しをしています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の事前面接や過去の生活歴をヒヤリングし、今までの生活を入居してからの生活に反映できるよう、カンファレンスの際にしっかりと話しあっている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に御家族やケアマネから生活歴等をヒヤリングし施設内でも反映することができるようカンファレンスの際にしっかりと話しあっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の様子を観察した上でタイムスケジュールを把握し、本人に合わせた生活リズムにて生活をして頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に家族・ケアマネジャーからの要望を聞き、本人にはどのような生活をしていただけたらいいか、どうあってほしいかの要望を聞き計画書に反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝申し送りにて昨日の日中、夜間の状態「を伝えるとともに状態の変化があればその都度カンファレンスを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの協力を得たり等その人にあった環境整備を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の体調や身体の状態向上に努めるために買い物や散歩を実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族希望のかかりつけ医に往診をしてもらい、少しの変化でも連絡、報告を行い主治医との連携を図っている。又緊急時にはご家族と一緒に受診している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に報告し早期発見・早期対応ができるよう密に連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に面会に行き、担当医・看護師から情報を得て、退院時にしっかりケアが行えるよう医療機関との連携も大切にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明を行い、終末期の対応に医療が必要ない場合は、担当を決めカンファレンスを行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成している。急変時の対応については定期的に勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉使いについては御利用者様の目線に合わせた姿勢又傾聴できる体制を整えるよう常に心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との一対一の会話をする機会を設けその際に希望や思いを聞き出したり「どうしましょうか?」と言葉を投げかけたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせたケアが行えるようゆったりした時間配分をしている。又個別レクレーションや外出支援等希望に沿って行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて新しい服の購入等を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な盛り付けや片付けを行ってもらっている。食べたいものの希望を聞き手作りご飯の際は反映している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で調理されており1日バランスのとれた食事を摂っている。水分については水分量を記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている 定期的に訪問歯科による検診を行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し排泄パターンの把握に努めている。トイレ誘導を行っている方も個々に合わせた声掛けや誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽運動や散歩等により体を動かす又食事内容の検討等しなるべく薬に頼らず自然排便が見られるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回利用者様に合わせたタイミングを図り声掛け等により入浴を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々のタイミングで休息を取ってもらい、安心して夜間睡眠がとれるよう、静かで快適な空間を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の疾患や既往歴を把握し、何の薬を服用しているか理解し又服用後の変化がないかの確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好きなことができるよう個別の対応をしている 毎月、イベントを企画して楽しみ事の支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な行事や外出支援を行っている 外出支援の際は買い物を行うこともある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望により少しのお金を持つ方はおられます。買い物を行うことによってお金を使うということを行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望により電話を貸出したり、スタッフと一緒に手紙を書く等の支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度・温度調整の管理に努めている。季節に応じた壁画作り等を利用者の方と一緒にを行う等をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置きテレビを一緒に見たり、お茶を飲んだりできる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を入居時に持参して貰ったり、利用者様から訴えがあった時は御家族に持参して頂くようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ることの能力を把握し「自分が役に立てる」という気持ちになって頂けるようご飯の盛り付け等の支援をしています		